(氏名) 水口剛

(学部) 経済学部

- 1 重要事項
- (1) 書籍の刊行及び記事の執筆
- ▶ 水口剛・高田英樹編著『サステナブルファイナンス最前線』(金融財政事情研究会) を刊行した。金融庁のサステナブルファイナンス有識者会議のメンバーを中心に、 この分野の最新動向について執筆した。(2023年8月刊行)
- ▶ 「サステナブルファイナンスはどこを目指すのか~インパクトとトランジションから考える」公益財団法人資本市場研究会『月刊資本市場』2024年1月号
- ▶ 「サステナブル投資とインパクト」野村資本市場研究所『野村サステナビリティクォータリー』2023, Autumn.

(2) 学会報告

- ➤ 国際会計研究学会第 40 回大会(2023 年 10 月 28 日・29 日、近畿大学)の統一論題「サステナビリティ開示の現状と課題」に招待され「インパクトファイナンスとサステナビリティ情報開示ーS 指標からの示唆」と題して報告した。
- ▶ 日本社会関連会計学会第36回全国大会(2023年11月11日・12日、桜美林大学)の統一論題「環境経営における市場の功罪」に招待され、「サステナブルファイナンスにおけるインパクトへのアプローチ」と題して報告した。

(3) 投資家のサステナビリティ選好に関する研究

経済学部の佐藤(敦)准教授、阿部教授、宮田准教授、地域政策学部の田戸岡准教授との表記共同研究(主査:佐藤(敦)准教授)において、昨年度実施した、サステナビリティ選好の有無と、環境・社会問題に対する心理的態度などを調べるサーベイの結果を基に、産業研究(本学地域科学研究所紀要)第59巻第2号に「ESG投資を促進する要因の検討:サステナビリティおよび金融への態度とリテラシーに注目して」と題した研究論文をまとめた。

(4) S 指標研究会

連合総研および QUICK ESG 研究所が共催する「ESG-S 指標に関する調査研究委員会」で引き続き座長を務め、昨年度公表した中間報告を基に、「日本版ディーセントワーク 8 指標(JD8)」の最終版を取りまとめた。2023 年 7 月 20 日に「日本版ディーセントワーク 8 指標:投資家、企業、労働組合の果たすべき役割」と題したシンポジウムを開催し、社会に公表した。

(5) 金融庁サステナブルファイナンス有識者会議とインパクト投資検討会

金融庁が設置したサステナブルファイナンス有識者会議で引き続き座長を務め、2023年6月30日に『第三次報告書ーサステナブルファイナンスの深化』を公表した。また、同有識者会議の下に設置したインパクト投資等に関する検討会で副座長を務め、2023年6月30日に『インパクト投資等に関する検討会報告書―社会・環境課題の解決を通じた成長と持続性向上に向けて』と題した報告書を公表した。さらに、同報告書で提案した「インパクト投資に関する基本的指針」についてパブリックコメントを実施し、コメント結果を反映した基本的指針の取りまとめを行った。さらに、同報告書で提唱したインパクトコンソーシアムについて、2023年11月28日に設立発起会合を開催し、コンソーシアムの会長に就任することとなった。

(6) 環境省グリーンファイナンスに関する検討会

環境省が設置したグリーンファイナンスに関する検討会で引き続き座長を務め、グリーンファイナンス関連ガイドラインの整理の作業を進めた。具体的には、国際原則に準拠する部分と国内向けの解説等を峻別することで、今後の国際原則の改訂を速やかに反映できる体制に大きく変更した。

(7) 講演等

- ▶ 慶応義塾大学経済学部の寄付講座で「サステナブルファイナンスと人的資本」と 題して講演した(2023年10月24日)。
- ▶ 経団連 CBCC の 2023 年度定時総会にて「サステナブルファイナンスの動向と企業が取組むべき課題」と題して講演した(2023 年 6 月 12 日)。
- ▶ 政策研究フォーラム 2024 年全国会議の第2部会において「ディーセントワークを実現する企業年金(Workers' Capital)の活用」と題して講演し、パネルディスカッションに参加した(2024年2月20日)。
- ➤ 多摩大学社会的投資研究所が主催するインパクトサロンにおいて「インパクト投資と IFSI」と題して講演した(2023年10月24日)。
- ▶ 東京都の中堅・中小企業向けサステナビリティ経営促進セミナーにおいて「サステナビリティ経営の必要性一脱炭素から人的資本経営まで」と題して講演した(2023年10月17日)。
- ▶ 金融庁金融研究センターの金融経済学勉強会において「サステナブルファイナンスの未来」と題して講演した(2024年2月26日)。
- ▶ 公益座談法人資本市場研究会において「インパクトとトランジション」と題して 講演した(2023年12月21日)。
- ▶ 日本公認会計士協会が全国の公認会計士向けに開催した JICPA サステナビリティ・ウェビナーシリーズにおいて「サステナビリティ総論」と題して講演した (2023年8月25日)。

2 その他の事項

法人評価委員会において 2022 年度までの第 2 期中期目標期間の 6 年間の評価を受け、「おおむね良好かつ適正に達成されている」との評価を得た。2023 年度は第 3 期中期計画の初年度となり、数理・データサイエンス教育の充実に向けた議論を開始した。昨年に続き、各界の識者を講師に招いた特別講義「世界と日本の未来を考える」も実施した。

学長として教育研究審議会を主催するとともに、副理事長として理事会、経営審議会に出席した。また、公立大学協会の学長会議や県内の国公立 5 大学学長会議など、学長として対外的な会合に出席した。各地の後援会・同窓会の支部総会に参加して大学の現況説明を行った。

3 次年度以降の計画・抱負

文部科学省の強力な方針の下、全国の大学がデータサイエンス系学部の新設に向か う中、2024年度は本学としても方向性を決めるべき年になると考えている。学内外の 関係者と丁寧に対話することを通して、適切な方向性を見出す努力をしたい。

研究面ではインパクト投資に関する著書の監修、非財務情報開示に関する共著の執 筆、テキスト『企業と会計の道しるべ』の改訂などを計画している。インパクトコンソ ーシアムが本格的に立ち上がることから、その適切な運営にも努めたい